

**製品名: ラミニンガンマ 1 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe86851**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:2000
分子量	Calculated MW:178 kDa; Observed MW:220-250 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	Laminin gamma 1
別名	LAMB2
遺伝子 ID	3915
SwissProt ID	P11047
免疫原	ヒトラミニンガンマ 1 の組み換えタンパク質

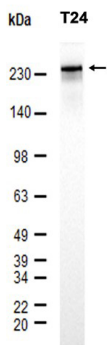
**背景**

ラミニンは、細胞外マトリックス糖タンパク質ファミリーであり、基底膜の主要な非コラーゲン性構成成分です。細胞接着、分化、

遊走、シグナル伝達、神経突起伸展、転移など、様々な生物学的プロセスに関与していることが示唆されています。ラミニンは、ラミニン  $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$  (以前はそれぞれラミニン A、B1、B2 と呼ばれていました) という3つの非相同鎖から構成され、それぞれ異なる鎖で構成された3本の短腕と、3本すべての鎖で構成された長腕からなる十字型構造を有しています。各ラミニン鎖は、それぞれ異なる遺伝子によってコードされるマルチドメインタンパク質です。各鎖には複数のアイソフォームが報告されています。異なるアルファ、ベータ、ガンマ鎖異性体が組み合わさって、異なるヘテロ三量体ラミニンアイソフォームが生じます。これらは発見順にアラビア数字で指定されます。つまり、アルファ1ベータ1ガンマ1ヘテロ三量体はラミニン1です。異なる鎖と三量体分子の生物学的機能はほとんどわかっていませんが、一部の鎖は組織分布に関して異なることが示されており、おそらく生体内での多様な機能を反映しています。この遺伝子は、ガンマ鎖アイソフォームラミニン、ガンマ1をコードしています。以前はベータ鎖であると考えられていたガンマ1鎖は、ベータ鎖に類似した構造ドメインを含みますが、ドメインIとIIを分ける短いアルファ領域がありません。また、この遺伝子の構造構成は、この遺伝子がベータ鎖遺伝子から大幅に分岐していることを示唆しています。相同組換えによって $\gamma$ 1鎖遺伝子の両アレルが不活性化されたトランスジェニックマウスの胚は基底膜を欠失しており、ラミニン $\gamma$ 1鎖がラミニンヘテロ三量体の組み立てに必要であることを示唆しています。マウスのラミニン $\gamma$ 1 cDNAの3' UTR配列が著しく類似していることから、ヒトでは複数のポリアデニル化部位がノーザン解析で観察される2つの異なるサイズのmRNA (5.5 kbと7.5 kb) を生成するために利用されていると推測されています。[RefSeq提供、2011年8月]

## 研究分野

## 画像データ



ラミニンガンマ1 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した T24 細胞抽出物のウエスタンブロット分析。